

地域を活性化させるコミュニケーションツールに

京都・福知山「ベルつながりの会」

京都府福知山市で、公民館などで集めたベルマークを仕分け・集計し、市内の全9中学校に寄贈するボランティアをしているグループがあります。3年前に結成された「ベルつながりの会」です。市内在住の本多洋子さんが代表を務めています。

「ベルマークにはいろいろな可能性がある。それを福知山で引き出したい」

そう考えるようになったきっかけは、非常勤の職員として働いていた小学校で、ベルマークのしくみを知ったことでした。もともとまちづくりに関心があった本多さんは、ベルマークを「地域で子どもを育てる」ことにも応用できるのではないかと考えました。

最初に取りかかったのは、公民館に回収箱の設置をお願いすること。公民館に置けば、誰でも収集に協力することができ、学校から離れた大人も子どもたちと「つながる」ことができます。

「ベルつながりの会」の会員は現在9人。月に1回集まって、仕分け・集計をします。たった一人で始めた

活動でしたが、社協のお便りや、地元紙の両丹日日新聞で取り上げられたことでメンバーが増えていきました。

本多さんの考えるベルマークの可能性は他にもあります。例えば、ベルマーク運動を生徒の探究学習の題材にすること。会の活動を知った高校から、実際に依頼を受けて、生徒に運動のしくみを説明したこともあります。SDGsに取り組む団体として同市から認定を受けたり、さらにはFM丹波放送のラジオ番組にも出演しました。本多さんが広く知ってもらいたいことのひとつが、協賛会社の素晴らしさ。「ベルマーク運動への協賛は、各企業の社会貢献や子どもたちの教育に対する意思の表れだと感じます」と話す通り、各社への敬意が活動の原動力にもなっています。

本多さんが目指すのは、コミュニケーションを深められるツールとして、福知山にベルマークを浸透させることです。「お年寄りも子どもも年齢関係なく、ベルマークのことなら対等に話ができるような地域づくりを目標に、これからも頑張っていきます」と語ってくれました。



④「ベルつながりの会」会員のうち、3人が集まってくれた。左から高木素子さん、代表の本多洋子さん、古口明美さん ⑤⑥「ベルマークオタクの極致」と自称する本多さん。あらゆる資料を集め、まとめている ⑦⑧テトラバック収集にも熱心な高木さん

市場調査費1億円を達成

協賛会社の石井食品

協賛会社の石井食品（ベルマーク番号93）の市場調査費が1億円を超え、7月25日に財団から感謝状を贈りました。

ベルマーク財団の山崎靖・常務理事から感謝状を受け取った、石井食品の伊藤幸一郎・執行役員は「1974年生まれ、『イシイのおべんとクン ミートボール』は来年、50周年を迎えます。これまでベルマークを長く続けてきたように、『真(ほんとう)に美味しいものをつくる』をモットーとして体にも地球にもやさしい商品をこれからもずっとお届けしたい」と話しました。



ベルマーク運動の協賛会社は、集まっ

たベルマーク1点につき1.275円（このうち1円は参加団体のベルマーク預金、0.275円は財団運営費＋運営費にかかる消費税）を市場調査費として支払います。



石井食品の伊藤幸一郎・執行役員(右)と、ベルマーク財団の山崎靖・常務理事

キャンペーンで20万点を収集

ダイレックス×麒麟ビバレッジ×湖池屋×日清食品

ディスカウントストアを展開しているダイレックス(本部・佐賀市)が、協賛会社の麒麟ビバレッジ(ベルマーク番号54)、湖池屋(同77)、日清食品(同35)と共同でキャンペーンを実施し、20万3532点のベルマークを集めました。

集めたマークは佐賀市内の小学校に寄贈される予定で、寄贈先の選定には市教育委員会が協力します。8月2日、関係者が佐賀市役所を訪れ、同市の中村祐二郎教育長にベルマークを手渡しました。

今回で3回目となった「ベルマークで応募! “おうち時間” 充実キャンペーン」。ダイレックスで3社の商品を買って、商品に付いたベルマークをはがきに貼って送ると、抽選で賞品が当たるという内容

でした。ダイレックスと麒麟ビバレッジが共同で始めたキャンペーンに、2回目からは湖池屋が、そして今回は日清食品も加わりました。ダイレックスの多田高志社長は「ダイレックスは、佐賀が発祥の地。ベルマークを集めて、佐賀に貢献でき、小学生たちのたくさんの笑顔につなげられたらうれしい」と話しました。



前列右から3人目がダイレックスの多田高志社長、前列右から4人目が中村祐二郎教育長

「このしくみだから続けられる」 東京・山王小PTAが財団見学

東京都大田区立山王小学校のPTA文化部員、林正昭さんと志織さんが7月13日に財団事務所を見学しました。おふたりは、ベルマークの仕分け・集計をするPTA活動に夫妻で参加しています。

まずはDVD「未来を育むベルマーク」を上映した後、全国から届いたベルマークを保管している倉庫と、マークを確認する「検収」の様子を見てもらいました。参加団体から届いたマークは到着日が分かるように保管し、古いものから順番に検収係に渡ります。検収係は、点数明細に見合ったマークが入っているか、他の会社のマークが混ざっていないかなどをチェックします。

自分の学校のためのお買いものが、自動的に支援にもつながることを理解できたというおふたり。見学を終えて、「このようなくみだから継続的な支援ができるんですね」と志織さんは話してくれました。

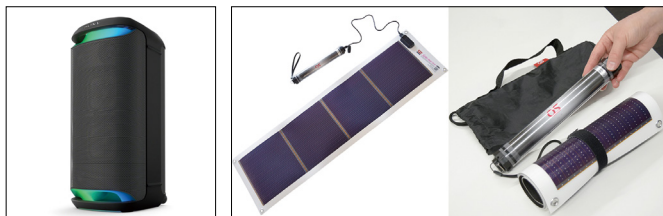


検収係の手元を見る林さんご夫妻

東通産業、こんな商品も 取り扱っています

協力会社の東通産業が「ワイヤレスポータブルスピーカー SRS-XV800」を販売しています。クリアな高音質と大迫力の重低音からなるパワフルなサウンドを、広い場所でも届けられます。価格は77,200円(税抜)です。

また、太陽光で発電できる手巻き型のソーラーシートチャージャーと、集めた電気をためるバッテリーのセット「ソーラーシートチャージャーセット」も販売しています。ソーラーシートの出力やバッテリーの容量によって、「GN-050B1(税抜18,500円)」と「GN-100B1(税抜25,800円)」の2種類のセットがあります。セット内容などの詳細は財団HP(https://www.bellmark.or.jp/cooperation/new_products/30005691/)をご覧ください。お問い合わせは東通産業(0120-129-102)まで。



④「ワイヤレスポータブルスピーカー SRS-XV800」
⑤ソーラーシートチャージャー GN-100と防水LEDチャージャー GB-19L-DC01のセット「GN-100B1」

◎「防災科学教室」開催校を募集しています

財団のソフト事業「教育応援隊」では、「防災科学教室」の開催校を募集しています。

災害の予測や予防、災害発生時の対応、復興など、防災力を向上させるための研究をしている国立研究開発法人防災科学技術研究所(防災科研)との共催です。防災科研の研究者が講師を務め、災害の起こる仕組みや備えなどをお話しします。費用は無料。財団HP>ダウンロード>各種申込書にある「開催申込書」に必要事項を記入し、希望日の1ヵ月以上前までに、ファクスまたは郵送で財団にお送りください。

◎寄贈マークをお送りください

ベルマークを集めてお買いものができるのは、学校などの参加団体だけですが、運動に参加していない企業や団体、個人の方でも、マークを集めて財団に寄贈することができます。財団にお送りいただいた「寄贈マーク」はへき地学校や特別支援学校などへの支援に活用いたします。なお、送料はご負担をお願いしておりますのでご了承ください。

【寄贈マーク(財団への寄付)の送り先】

〒130-0026 東京都墨田区両国3-25-5 JEI 両国ビル9階
ベルマーク教育助成財団「寄贈マーク係」